乳児期の頬の浸出症状と幼児期の喘息を経て皮膚・喘息症状がほぼみられなくなった小児アトピーの経過（9 歳 男児）

症例 ID：001-09-KR3　｜　記録日：2017 年 6 月 18 日

1. 診断・治療前経過

生後 2 か月から両頬の湿疹が強くなり、ステロイドを使用せず、煎じ薬、漢方入浴、外用薬による治療を開始しました。生後 7 か月には両頬が一日中浸出性となり、掻いて出血する時期がありました。牛乳と卵の食物アレルギーもありました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	ステロイドは使用していません。
製品名	該当しません。
強度	該当しません。
使用期間	使用歴はありません。
中止時期	該当しません。
来院前／後	来院前後とも使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 2 か月	治療開始	両頬の湿疹に対して治療を開始しました。
生後 7 か月	症状のピーク	両頬が一日中浸出性となり、掻いて出血しました。
1 歳頃	変化	傷が乾いている時間が長くなり、漢方入浴を終了しました。
1 歳 6 か月	皮膚症状の変化	断乳後、湿疹がほとんど出なくなりました。
2 歳	喘息発症	風邪気味の時に喘息が出て、喘息向けの治療へ変更しました。
3 歳	喘息経過	走った後などに時折喘鳴が出ました。
9 歳	記録時点	皮膚と喘息の症状はほぼみられず、風邪をひきにくくなり、体格も大きくなりました。牛乳・卵アレルギーは残っていました。

4. ピーク時期

ピークは、生後 7 か月に両頬が一日中浸出性となり、強いかゆみで掻きむしって出血した時期です。

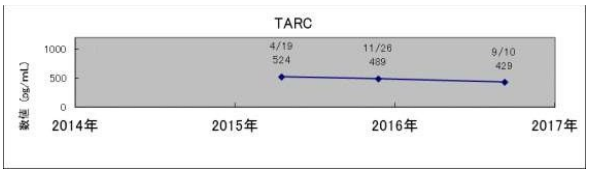
5. 困りごと

・両頬の浸出液と出血が続き、爪を常に短く保つ必要がありました。

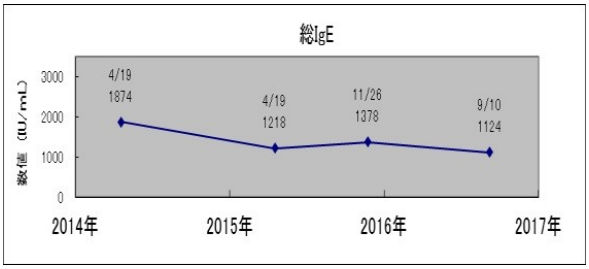
・2 歳以降は喘息が出て、走った後に喘鳴がみられる時期がありました。

・牛乳と卵の食物アレルギーが残り、摂取量を調整する必要がありました。

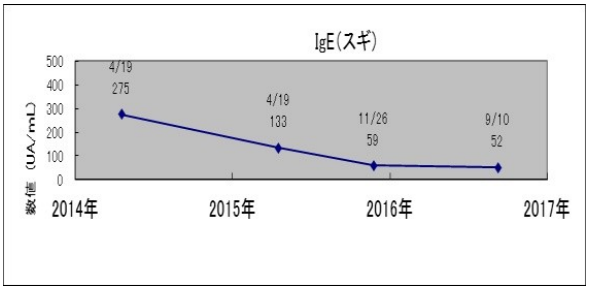
6. 検査値・写真・画像　※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



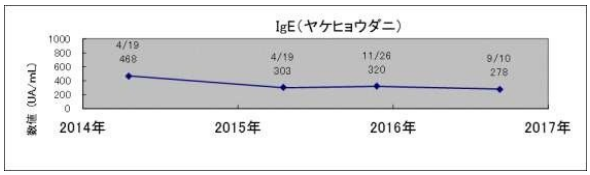
経過中の検査値の推移。



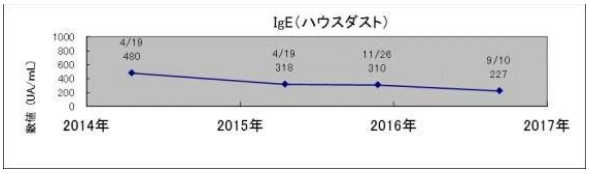
経過中の検査値の推移。



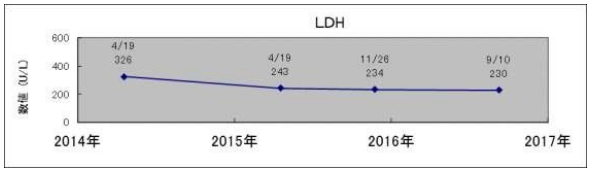
経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。

経過中の検査値の推移。

経過中の検査値の推移。

7. 経過のまとめ

1 歳 6 か月以降は湿疹がほとんど出なくなり、9 歳時には皮膚と喘息の症状はほぼみられませんでした。

風邪をひきにくくなり、皮膚は白くきれいと言われる状態で学校生活を送っていました。牛乳・卵アレルギーの治療は継続していました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。